

埋もれた歴史

戦争遺跡を訪ねて

2月23日に開催された「香南・南国の戦争遺跡めぐり」へ参加しました。遺跡の発見者であり高知市平和資料館「草の家」調査員の福井康人さんと、市文化財センター調査員の松村信博さんの解説に耳を傾けながら、南国市や三宝山のトーチカ・陸軍壕跡（野市町大谷・海軍砲台跡）夜須町千切）などを見学しました。



▲夜須町の砲台跡。約8mの円筒状で、県内最大級とのこと



福井康人さん

山肌に無言で語る傷跡

三宝山では、海岸線から上陸してくる連合国軍を迎え撃つためのトーチカ跡やトンネルがいくつも見つかっています。戦争末期に約3,000人に及ぶ兵力が動員され、上陸してくる連合国軍との本土決戦のために山自体が要塞化されたような「最後の砦」だったそうです。

夜須町の砲台跡は山裾を荒削りながら強固なコンクリート壁面で囲まれたものでした。連合国軍に占拠の目標とされたことを想定し、ここから航空基地（現高知龍馬空港）に向けて長さ6メートルの大砲が備えられていたということです。

この地に立って砲台を想像するだけで息が詰まりました。福井さんの解説には深い思いと配慮があり思わず涙して見ていた方もおられました。まるで、ここだけまだ戦争が終わっていないような気配を感じる場所でした。



▲三宝山の山腹に人工トンネルが。奥は水没しています

香南市でも確かに戦争があったという事実

「噂では聞いたことあったけど、こんなのが残っていたとは……」と参加者から驚きの声が上がっていました。日頃なげなく生活しているこのまちでも、ほんの70年ほど前には戦争があったのです。

これらの戦争遺跡が何を語っているのか。体験したことのない世代の私たちはドラマや映画、本で読んだり聞くだけの戦争しか知りません。でも今、そこに立ってこの目で見て解説を聞いた人なら何も感じない人はきっといない。そう思いました。



▲香南市で見つかった、防弾チョッキの「型」を説明する松村信博調査員

福井さんの資料の最後に「戦後69年目、戦争の語り部が人から物へと変わりつつあります。そして戦争の爪痕を見て触れて多くの人に知ってもらって子どもたちの平和学習に生かしていただきたい」とあります。

また文化財センターの松村さんも「戦争遺跡を知ること、戦争を知らない親子が次世代への語り部になって伝えることができれば……」と語ってくれました。

これら戦争遺跡はまだ調査中であり、保存や活用については多くの市民の皆さんの理解がなければ実現できません。当時の資料や体験談が集まりにくいという、家のどこかに眠ったままになっていることもあるようです。

戦争のない平和がいつまでも続くためにも、このような戦争遺跡や資料は非常に重要なものであり、私たちはそれを語り継いでいかなければならないと心の底から思いました。



あなたの記憶をお貸しください

戦争の語り部を探しています

広報こうなんNOWでは、毎年8月号で戦争平和特集を掲載しています。

戦争を体験された辛い思いを口に出して話してくださった多くの方々のおかげで、戦争とは何か、平和とは何かを、誌面を通してお伝えすることができています。

今年も8月号の誌面で、戦争平和特集を予定しています。次世代に戦争の悲惨さを語り継ぎ、平和な世が続くためにも、戦時中、実際戦争に関わったり、体験したことを話してくださる方を探しています。ご協力いただける方は、ぜひ市役所総務課秘書広報係までご連絡ください。

香南市広報編集委員会一同

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi.konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi.konan.lg.jp